

■市長 年頭あいさつ（要旨）

昨年を振り返ると、新型コロナウイルスの流行により市民生活や市政運営に甚大な影響を受けた一年だった。オミクロン変異株の県内における市中感染が確認されるなど、今後の再拡大が心配される。ワクチン接種については、市民に混乱が生じることのないよう、本市独自の「小牧市方式」により、年齢順の接種を基本として、計画的に接種を進めてきた。円滑に接種を進めることができたのは、医師会、医療関係者をはじめとする関係各位や市民の皆さんの理解と協力の賜物であり、心から感謝する。3回目の接種についても、医療従事者や高齢者、基礎疾患のある方など、2回目の接種を早く終えた方から順番に実施していく。

昨年3月には、小牧駅西に滞在型の新しい図書館である「小牧市中央図書館」、および「こども夢・チャレンジNo.1都市」を体現する「こまきこども未来館」をそれぞれオープンした。感染対策を行いながら、両施設ともオープン以来多くの方に利用され、大変好評をいただいている。5月には、環境・貧困・人権といった課題を解決し、持続可能な社会を実現するための国連2030年目標である「SDGs」への取組みについて、本市は内閣府より尾張地域初の「SDGs未来都市」に選定された。市の政策と目標達成に向けた提案が評価されたものであり、「持続可能で多様性と包摂性のある小牧市の実現」に向けて、今後さらに取組みを推進していく。

本市は、3つの都市ビジョンを掲げながら、まちづくり推進計画にのっとり今市政を進めているところであるが、新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな事業が中止されたり、予定どおり実施できなかつたりと大きく影響を受けている。しかしこういった状況にあっても、課題を解決して前に進めていくため、職員とともに今年も1年頑張っていきたい。

新型コロナ関連では、第1に「守りの戦い」、第2に「攻めの戦い」、そして第3に「日常を取り戻す戦い」の3つの戦いがあると考えている。

まずは市民の安全と市民の暮らしの安定を守るため、コロナに脅かされる中でも、特に独り暮らしの高齢者など本当に支援を必要とする方にしっかりと手が届くような対応をしていく必要がある。また、これまで進めてきた支え合い・助け合いの地域づくりについても、特に地域活動が脅かされている。コロナ禍で外出自粛等がある中でも、将来的に地域力が失われるようなことがないようにしっかりと守っていくという、「守りの戦い」をしなければならない。

また、新型コロナによって社会が大きく変わり、デジタル化、オンライン化といったことが急速に進む中、それに対応した行政改革を進めるなど、未来を見据えた「攻めの戦い」もしていきたいと思っている。

「日常を取り戻す戦い」については、コロナを克服して、行動制限のない当たり前の日常を取り戻すということが望まれている。今後が見通せない中ではあるが、引き続き感染対策の徹底をお願いしながら、3回目の接種も迅速かつ円滑に進めていきたい。

オミクロン株の拡大とワクチン効果が低減時期とが重なっている中で大変心配される場所であり、市としてもできる限り迅速に前倒しをして進められるよう努力をしている。高齢者については今月中にも3回目の接種を始められるよう準備を進めている。2回目の接種を終わった方からできるだけ早くということなので、医師会や医療機関と相談し、ワクチンさえ確保できれば接種体制は十分に確保できている。ただし、一気に接種券を送る、あるいは医療機関で予約ができるようにすることは1回目、2回目の接種において、全国的に混乱を生じた非常に悪い例だと考えている。本市では接種券を一斉に送らず、二、三日刻みで接種の予約枠を空けた分だけ年齢の高い方から順番に送り、接種券が届いた方は即日ですべて予約が受けられるという体制でやってきた。この「小牧市方式」を堅持し、今回も2回目の接種を終えられた方から順番に、できる限り早く数日刻みで接種券を発送しながら、予約をスムーズに混乱なく受けられるような体制とする。あわせて医療機関での受付ではなく、市が一括して市内のワクチン接種を管理して予約を受け付ける体制についても堅持していきたい。

本日は、市民参加による信長の石垣復元 ～（仮称）『小牧山城復元プロジェクト』～について、こまき巡回バス「こまくる」の一部路線等の見直しについて、市公式LINE の新たな取り組みについて説明する。

■ 説明要旨

【市民参加による信長の石垣復元 ～（仮称）『小牧山城復元プロジェクト』～について】

市のシンボルである小牧山は、戦国時代、織田信長の居城、徳川家康の小牧・長久手の戦いの際には本陣となった小牧山城として国指定の史跡となっている。近年の発掘調査では、信長が初めて築いた石垣が確認されるなど、近世城郭のルーツとして注目を集めており、続日本100名城にも選

出されている。平成20年度から令和2年度まで発掘調査を実施し、山頂部分の当時の様子がおおよそ明らかになってきた。この間に確認した石垣は、雨や風で崩落・風化しないよう常に埋め戻しを行って保存してきた。

現在進めている整備事業では、令和3年度から令和7年度まで5年間をかけ、調査で見つかった3段の石垣を、本物を中心に園路沿いに見られるよう園路とともに整備する。事業費は、概算を合計して4億5,600万円余りとなる。

これにあわせて、長年にわたる発掘調査の成果をお披露目できるこの絶好の機会に、「市民参加による信長の石垣復元 ～（仮称）小牧山城復元プロジェクト～」を実施する。内容としては、3つのプロジェクトを展開して、市民参加の機会を提供してPR、魅力の発信、シティプライド、愛着や誇りの醸成を図っていく。

プロジェクトの1点目として、今回の石垣整備で補助用の裏込石として新たに購入する石に、1個につき1,000円で名前やメッセージを書き入れていただき、市民意識の醸成を図る。裏込石とは、城の石垣の大きな石の背後に、排水や土砂の流出を防ぐため補填される拳から人の頭ぐらいの大きさの石で、発掘されている小牧山城の石垣の背後にも裏込石が使われている。完成後は表から見えなくなるが、言わばメモリアルストーンとして小牧山城とともに皆さんの思いを未来に伝えていこうという企画である。歴史館とれきしるこまきにて2月11日から受付を開始する。

2点目としては、こまき応援寄附金6コースに加え、新たに小牧山城復元応援コースを設け、令和4年度から募集を開始する。このコースを選択した方の寄附は、石垣復元整備事業の資金に充てる。

3点目は、企業版ふるさと納税の制度を利用した寄附の募集である。この制度は、本市の施策に賛同する企業から寄附をいただき、地方創生の取組に活用する一方で、企業側は寄附額の最大9割は法人関係税から控除されるというものである。これまでに本市は3件、1,610万円の寄附をいただき、既に子育て支援や支え合い活動等に活用している。今後は石垣復元整備事業に対しても、新型コロナウイルス感染症の影響などで厳しい社会情勢の中ではあるが、企業の皆さんの応援をお願いし、寄附の呼びかけを積極的に啓発していく。

小牧山城は、信長、家康ゆかりの城として全国的に注目されている。戦国ファン、お城や戦国武将ファンなどの皆さんから応援いただけるのでは

ないか期待している。また、令和5年からNHKの大河ドラマ「どうする家康」が放送されることに伴い、「小牧・長久手の戦い」や本陣としての小牧山城にも脚光が当てられることが非常に期待されているため、皆さんの応援をいただき、より魅力あふれる小牧山にしていきたいと考えている。

【こまき巡回バス「こまくる」の一部路線等の見直しについて】

こまき巡回バス「こまくる」は、令和2年12月1日に市内全域でルート・ダイヤ等の再編を実施したが、その後寄せられた各地区からの要望、市民や利用者の方からの意見などに応えるため、一部の路線においてルート・ダイヤ等の見直しを実施する。

全23路線中、見直しの対象はルートの変更を伴うものが2路線、ダイヤの変更などが17路線である。この見直しによる路線数・利用料金の変更はない。この見直しによる運行開始は、令和4年3月1日を予定している。今後、市ホームページや広報「こまき」などで周知を図る予定である。

なお「こまくる」の利用状況は、新型コロナウイルス感染症の影響により、コロナ前の令和元年度と比較して2割程度減少していたが、昨年12月は令和元年度とほぼ同じ人数まで回復した。今後、第6波の影響も十分に考えられるが、引き続き多くの方々の声をお聞きしながら利用の促進に努めていきたい。

【市公式LINEの新たな取り組みについて】

・LINE セグメント配信スタートキャンペーンについて

小牧市LINE公式アカウントにおいて昨年11月30日から試行的に開始している「セグメント配信システム」とは、LINEの友だち登録者が各自で受信設定を行うことで、一人一人が興味のある情報だけを受信できるという機能であり、その効果を発揮するためには多くの方の受信設定が必要となる。受信設定促進を図るため、受信設定をした方への抽せんプレゼント企画を「LINEセグメント配信スタートキャンペーン」と題して実施する。

内容は、市LINE公式アカウントで本年2月18日の午後3時までに受信設定をした方の中から抽せんで1,000名の方に、松永製菓株式会社「スターしるこサンド110グラム」を1袋プレゼントするというものである。

なお、当選者の商品引換えについては、本年3月18日午後6時までに松永製菓の直営店「パインツリーファクトリー」でスマホのクーポン画面を

提示して受け取ることができることとなっている。

・こまき山LINE スタンプの販売について

広報広聴課職員がイラスト作成ソフトを使って作成した、市公式マスコットキャラクター「こまき山」のLINEスタンプを50 L I N Eコイン、日本円でいいますと120円で販売する。

スタンプについては、「おはようございます」や「ありがとうございます」などのメッセージに、それをイメージすることができるイラストを添えて全40種類作成した。

販売開始は、1月12日を予定している。市公式LINEの友だち登録者の増加につながるよう積極的にPRに努めていきたいと考えている。